

令和 7 年度使用西多摩地区町村立学校教科用図書＜中学校＞ 選定教科書とその理由

西多摩地区町村立学校教科用図書採択協議会

	国 語（光村図書出版）	書 写（光村図書出版）
内 容	①「話す・聞く」の内容は、スピーチやプレゼンテーション、グループセッションが重視されており、テーマ例も挙げられている。 ②第1学年で説明文・レポート、第2学年で手紙・意見文、第3学年で批評文を書くことになっており、発達段階が考慮されている。 ③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。 ④学習の手引きは、ポイントを示した「学習の窓」と併せて、主体的な学習に取り組める課題になっている。 ⑤「文法への扉」は簡潔に説明されている。また、発達段階に応じた「語彙ブック」も付属しており、文法項目と日常的に使う表現を関連付けながら学習することができる。	①第1学年「①読みやすく書くための楷書」「②読みやすく早く書くための行書」、第2学年「①読みやすく早く書くための行書」「②文字を使い分ける」、第3学年「①文字を使い分ける」「②未来へ向かって」となっている。国語の教科書と関連させ、教材の言葉や文章を取り上げている。 ②「行書スイッチ」という行書を書く際のポイントが4つに整理されている。イラストにより視覚的にも注意点が把握しやすい。
構成・分量	①本編(8つの単元)、学びを深める(文法と語彙編)、本編に関連する資料編の3部構成になっている。巻頭目次後に、領域別の教材一覧表が折りたたみで付いており1年間の学習の見通しを一目で確認できる。 ②第2学年・第3学年は、第1単元が小説(第1学年は物語)である。質・量共に適切な内容のもので構成されている。 ③古典作品は、2年次に古文が随筆2作品、軍記物語1作品、漢文は漢詩4編で構成されている。古典作品の総量は適量である。 ④各作品後に関連する知識が日常にどう活かされるかを示す内容のページが設けられている。	①全教材の進め方が、1 考えよう、2 確かめよう、3 生かそう、の3ステップになっており、生徒が見通しをもって学習を進めることができる。 ②教科書本編（巻末資料含む）140 ページと資料編 35 ページ（別冊書写ブック 27 ページ、書き初めマスターブック 8 ページ）の計 165 ページある。 ③毛筆見本は1年生3点、2年生3点、3年生2点、書き初め各学年大・1点、小3点の計12点、巻末9点の合計29点となっている。
表記・表現	①「学びへの扉」で学習事項が上下に系統立てて表記されており、「学びのカギ」と合わせて確認すべき内容が明確である。 ②古典分野は作品により適宜、原文と現代語訳が上下で配置されている。現代語訳は適宜、カラー表示を取り入れている。鑑賞が難しい短歌の現代語訳も表記してある。 ③古典分野は現代仮名遣いとふりがなが右側だが、（ ）付けすることで、区別しやすくしている。	①毛筆見本は見開きで半紙原寸大の掲載が多い。 ②イラストや写真が多く掲載されている。また重要な点にしぼってカラーが使用されており、注意点やポイントを把握しやすい。 ③情報を精選したレイアウト、カラーユニバーサルデザイン、ユニバーサルデザイン書体の使用、多様性への配慮している。
使用上の便宜	①巻頭の「学習の見通しをもとう」には、作品とSDGsの関連付けが分かる記載がある。 ②「資料編」の「学びのカギ」一覧で振り返りとまとめができる。第3学年の「つながる古典」では、イラストや相関図により古典の学びを振り返りやすい。 ③新出漢字一覧は筆順や用例もある。 ④二次元コードの内容が表記されており、事前に内容の確認ができる。	①別冊書写ブックが付属している。硬筆や書写の導入に活用できる練習帳や、都道府県名と年賀状の書き方練習スペースがある。 ②巻末に「日常に役立つ書式」（手紙、願書、レポートの書き方等）、「中学生のための漢字字典」（常用漢字表、人名用漢字表、片仮名・数字・アルファベット、部分別行書一覧）、「書き初めマスターブック」がある。 ③二次元コードのコンテンツに動画、写真、補充教材が多くある。 ④教科書のサイズはB5版で比較的幅を取らずに机の上に置くことができる。